文章：真本　英行

教師として、生徒が学ぶことにおいて大切なことがいくつもあります。
アクティブラーニングが学校の現場でも注目されています。

生徒が学習するのに適した心理状態・感情状態があります。
それを教師は引き出し、学びに活用するようにしていきます。

条件付け、アンカリングによって、状態管理ができます。
つまりは、必要な状態を導出しておき、アンカリングしておくことです。

音楽も１つですし、アイスブレークでもできます。

こういった事象は、学ぶ前から、日常に存在もしていて、体験もしていることです。
ラベリングして顕在化することで、認知しコントロールができるようになり、教育の現場で活かすことに繋がります。

アンカリングは重ねることもでき、強化することもできます。
そして、学習の場で導出された状態を、未来のある場面で発火することも可能であり、
それは、生徒にとって新しい学び・パターンを作り出したことになります。

新しいパターンを身につけたということは、何かの変化を生み出したということです。

もちろん、生徒自身が、スポーツ選手のルーチン、儀式的なジンクスと呼ばれるようなもので、アンカリングとすることも指導できます。

これは、非常にパワフルなことなのです。

文章：真本　英行

学習の場を成功させる為に、生徒からの情報をサルベージすることは重要な局面もあります。

生成文法など、情報の削除や歪曲という観点で考えると、
基情報まで溯るような情報の回復の為の質問を使うことが役立ちます。

生徒側が詰問に感じると、信頼関係が崩れます。
そうならないように言葉使いに気を配る必要があります。

枕言葉を使うこともその一つです。

失われた情報を回復する過程で、生徒への理解が深まります。
学習を阻害するトピックの把握をして、そこから指導やアドバイスに繋がるのです。

他にも運動についてのコーチや、質問によって指導を進めるという面でも使えます。

行き詰り感、閉塞感を持った心理状態から脱する為のヘルプとしても利用できます。
質問により相手の行動や思考の可能性の幅を広げることができるからです。

緩やかな指導介入を目指す時には、質問で生徒の話を聞き、
こちらかのアドバイスを曖昧で多分脈的な話し方で話しかけてあげると、
生徒の自主性を伸ばすことになります。

人間は自分自身で考えて気づいたことや自分で思いついた解決策について動機がわきやすいものです。
生徒自身でアイディアを考える誘導も同様であり、それも実行に移しやすいものです。

文章：真本　英行

生徒が無意識レベルで進める学習のプロセスについて焦点を当てるのも、アクティブラーニングのデザインに必要です。

提供して、学び結果からフィードバックを得ることで、無意識でのプロセスが実感できるようになります。

無意識の活用は、アイディア創出や問題解決など学習の場でも大きく役立っています。

無意識的なことを意識する過程で、人の多面的な部分にも焦点を当てていくと良いでしょう。
人の中にたくさんの部分があり、統合され、全体性があるという考え方もできます。

人の持つ多面的部分に関連して、思考や行動の意図を学ぶことも教師に役立つものです。
生徒へ理解にも幅がでます。

文章：真本　英行

時間軸

時間軸を体験するような実習を多くすることで、生徒は時間に対する意識が成長します。
タイムマネジメント能力が伸びるということです。

目標を設定して、達成するのに必要な行動、能力を揃えることが目標達成をするということになります。

過去の体験を探索して役立つ体験を探すことなど、時間軸についての考え方があるほど、達成の精度が上がります。

教師として、生徒と話すのと時に、相手の時間軸を頭の中でイメージしながら話すことで、指導やアドバイス、教授が上手に進められます。

真本 英行 株式会社 IR コミュニケーション （アイアールコミュニケーション）

各論理階層の一致感は、一貫性を作り上げるのに役立ちます。
学習の場でも、生徒に学習を促進してもらいたい時に力を発揮します。

生徒との信頼関係作りのスキルだけも良いのですが、やはり、教師側の一致感の姿勢を生徒が感じることはかなり重要です。
信頼関係を形成する際にも効果が高まりますし、教授の効果を高めることができます。
一致感のない教師という印象は、やはり不信感という状態を生みます。

文章：真本　英行

目標と意義

アクティブラーニングによって、何より重要なのが、目標を意識することです。
特に教育の分野で目標を意識して学習することで大きな変革が起きています。
また、目標を達成した時のイメージ化を明確化することや、現状と目標の差を埋めるリソースを揃えるという観点が実現率を高めます。

また、意義を考え、意識することで動機付けを助けることになるのです。
抽象度を上げた意義や意味につながっていることを感じなら勉学をこなすことは、学習を加速させます。

目標の明確化

学習の場では、生徒からいきなり目標を聞きだすことより、興味をもてるものを聞くほうが話を進めやすいケースが多いです。
興味について聞き、学習に繋げ、活かしていくことはとても有効です。
特に、苦手意識などの思い込みから脱すには、目標の明確化が非常に有効です。

好奇心を持ち、苦手意識から脱した時に、学習の達成へアクティブに進むことができるのです。